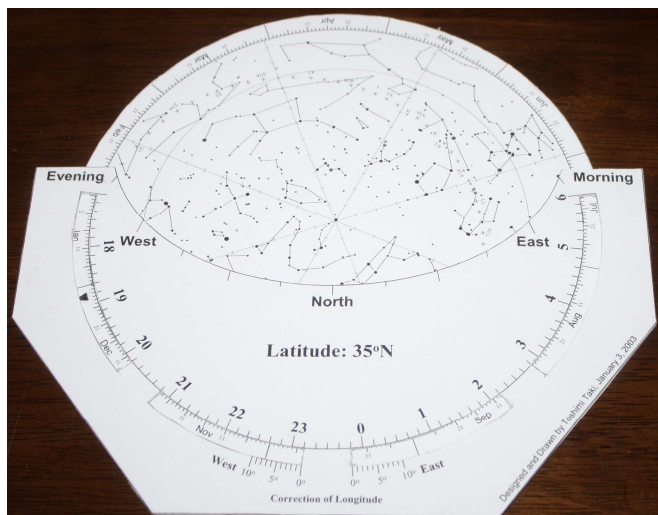


### 1. 滝氏 HP 掲載の星座早見盤 下写真

「滝氏ホームページに掲載されている」と、12月例会時に伊賀さんから紹介された首題の早見盤を製作した。表裏に北天・南天を分けたタイプで、1枚の一般的なものに比べ南天のひずみが少ない。

目盛は東経 135 度用であり観測地経度の差分補正用補助目盛がある。春日井市の修正量は約 $+2^\circ$ 。



### 2. クリスマスレクチャー2021 への参加 12月25日日

名古屋大学福井名誉教授が継続実施されているレクチャーを本年は Zoom にて開催。

21cm 波による中性水素の全天分布図が 2017 年公開された。分布図は視線速度によって色分けされており、ほとんどマイナスで銀河中心方向に向かっているように見える。

この中で銀経  $90^\circ$  銀緯  $-40^\circ$  付近にある線状の塊について注目。

大小マゼラン雲の間を結ぶブリッジのように、銀河間の重力により分子雲が塊として巻き上げられ、再度落下する状況が観測され、発生する雲-雲衝突が巨大星の生成メカニズムではないかと推定してきた。

銀河面に板状に集中した水素があるとし、そこに水素雲が衝突するとしてシミュレーションすると、「テルテル坊主」のようで見ることができるように見える。注目する塊の形は良く見ると「テルテル坊主」に見える。この前提で他の部分を観察すると似たものがいくつか見える。また、雨粒の集団のようなものも見える。福井先生のアイデアで海外の研究者にシミュレーション依頼したとのこと。銀河内は非常に距離が近くその形態的な観察ができシミュレーションとの比較も可能。

星形成の起源である水素ガスは、常に銀河面に降り注いでおり、種が尽きることはなさそう。

近々専門誌に論文として掲載される予定。

全天分布は、観測機器の性能向上とともに南半球での電波天文台設置が進み、コンピュータによる観測結果の全天一元表示には大きな努力が必要だったはずだが、その結果をどのように観るか、受け取る側の姿勢も重要。

### 3. 天界1月号掲載記事校正

月面あちこち(6) ヒギヌス(IMP)についての記事が1月号に掲載される予定。

IMP は Irregular Mare Patch の略で、海の中の特殊な形態的特徴を持つユニットで、一般的に数 km 四方以下。

### 4. 中日新聞の天文関係記事 12月11日～2022年1月7日で14件

前沢氏の ISS 滞在および体験談、ふたご座流星群、NASA 太陽探査機、JAXA 宇宙飛行士募集、ジェームス・ウェッブ宇宙望遠鏡打ち上げ成功、PD エアロの飛行試験計画、など。